

第3回 高分子学会男女共同参画セミナー —企業における女性の活躍— 報告

The 3rd SPSJ Equal Opportunity Seminar; Women's Activity in Companies

上田一恵 Kazue UEDA

2010年5月26日(水) 11:45~12:45, 第59回高分子学会年次大会の昼休憩の時間を利用して、本セミナーが開催された。

高分子学会 男女共同参画委員会委員長である栗原和枝先生による高分子学会男女共同参画委員会の活動報告の後、企業における女性の活躍に関して、企業の方から紹介いただいた。

男女共同参画委員会の活動報告では、好評をいただいている会誌「高分子」「先輩からのメッセージ—仕事と私事—」を編集していること、高分子討論会会場近くの外部託児所の紹介・費用負担、男女共同参画学協会連絡会シンポジウムにてポスター発表したことなどが発表された。さらに、退職などの理由で一度退会した方の、仕事再開への支援策の一つとして再チャレンジ制度を提案・施行し、すでに利用申し込みがあることも紹介された。この制度は男女に関わらず利用できる。これらの活動の成果として、この3年間で一般会員中の女性比率が約5%から約7%へ上昇(学生会員中の女性比率は20%強であり、究極の目標はこの数字)したことが報告された。短期間で目に見える成果に結びついたことを喜ぶと同時に、この後引き続き女性比率を上げていく困難さにも思いが及び、今後の活動がどうあるべきかを考えさせられる報告であった。

企業からの女性の活躍に関しては、2件の発表をいただいた。まず、帝人株式会社より構造解析研究所所長 知的戦略室室長の平坂雅男氏が、「帝人グループにおけるダイバーシティ推進」と題して講演された。帝人株式会社では、「男女共同参画」を越え、人種・国籍・性・年齢を問わずに人材を活かすという視点でさまざまな取り組みをされていた。中でも、一番印象的であったのは、化学系の学生に占める女性比率が

20%前後であるのに対し、帝人株式会社では、採用者のうち女性比率が30%前後であるということであった。10年以上にわたって継続されている。積極的に女性を活用していこうとする姿勢を強く印象付けるデータであった。

続いて、東洋紡績株式会社 総合研究所 研究企画管理室 部長 高橋則子氏より「東洋紡における男女共同参画」と題した講演があった。ご自身が男女雇用均等法施行の直前に企業に入社され、育児と仕事、とくに部下を多数もたれたときの対処法など、実体験を元にさまざまなエピソードも含めての講演で、大変参考になる話であった。東洋紡績では、最近の女性の定着率も高くなっており、会社全体として自然体で女性の活動の場が広がっていると感じられた。

会場からは、海外では履歴書に男女の記載もなく、写真も添付しないなどさらに進んだ事例が紹介されるなど活発な議論の場となった。会場には総勢60名余りが聴講に訪れたが、男女比はほぼ半々。女性のうち学生さんが約半分。企業と大学では企業が3分の1、大学が3分の2と、非常にバランスの取れた構成で、いろいろな立場の方が興味をもたれていることがわかった。男女共同参画の推進には、情報・意見交換の機会を共有できるネットワーク構築が重要であると改めて感じた。

今回は、囿らずも講演された2社の企業、さらに司会を務めさせていただいた筆者の所属する会社の3社が、繊維を会社の源流とし、現在では広く高分子・高分子以外へと業態を広げている会社であった。3社の共通点を思いながら、今後、ますます男女共同参画の精神を大切に、ダイバーシティを推進していく必要性を強く感じた。



上田一恵 Kazue UEDA

ユニチカ(株) 中央研究所 研究開発グループ
グループ長
工学博士
専門は高分子合成・加工・物性
E-mail: kazue-ueda@unitika.co.jp